

# ザ! 防犯! DASH!! ～つくばの地域コミュニティの開拓～

班員:宮下夏子(班長) 井澤寛生(副班長) 内田健太(書記) 馬場優樹(書記)

南手健太郎(渉外) 和田夏音(渉外) 稲見一貴(印刷) 山根万由子(DB)

担当教員:糸井川栄一 TA:渡辺春菜

## 1. はじめに

### 1.1 背景

筑波大学では度々自転車の盗難が起きている。それだけでなく先日では殺人事件が起こったこともあり、班のメンバーでつくば市の治安を疑う声が上がった。実際の犯罪状況を調べた結果、平成 28 年に茨城県では 26607 件の犯罪が発生しており、これは全国で 10 位の犯罪件数であった。人口 1000 人当たりの犯罪率は約 9.2 件で、全国 6 位の犯罪率であった。茨城県内でもつくば市は県内 2 位の犯罪発生件数であり、つくば市内で起こった犯罪の約 4 分の 1 が筑波大学周辺の天久保、春日、桜に集中している。これらの数字を基に、我々は筑波大学周辺の治安は悪さに着目し、「安心安全な大学生活のために、筑波大学周辺の治安改善」をテーマにした。

### 1.2 防犯環境設計

犯罪が発生する原因を考える上で、犯罪機会論が防犯環境設計(CPTED: Crime Prevention Through Environmental Design)では、建物や街路の物理的環境の設計により犯罪を予防する手法であり、地域住民や警察、自治体などによる防犯活動と合わせて総合的な防犯環境の形成を目指すものである。防犯環境設計では犯罪の機会を減らすための、以下の 4 つの手法が挙げられている。

表 1 防犯環境設計の 4 つの手法

①被害対象の回避・強化	②接近性の制御
犯罪の被害対象になることを回避するために、犯罪誘発要因の除去や対象物の強化を図る。	犯罪企図者(犯罪を起こそうとする者)が被害対象に近づきにくくする。
③自然監視性の確保	④領域性の確保
自然に目が届くように見通しを確保する。	領域を明確にして部外者が入りづらい環境をつくる。

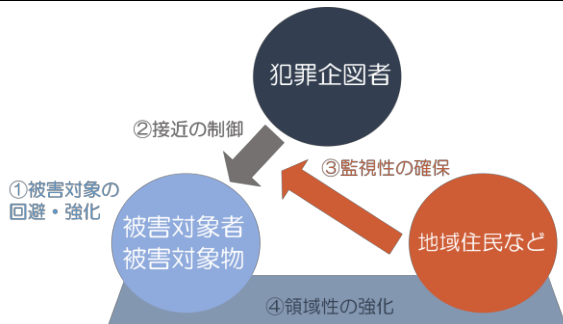


図 1 防犯環境設計の 4 つの手法の関係図

これらの 4 つの手法に関して KJ 法を行った。

以上の 2 つの研究から、「監視性の確保」「領域性の確保」が可能となる親密な近所付き合いは防犯に取り組む上で有効であるといえる。

### 1.3 KJ 法

防犯環境設計の 4 つの手法で KJ 法を行った。

#### ① 被害対象の強化・回避

- ・鍵を強固にする ・防犯グッズの所持
- ・被害対象の防犯意識を向上させる

#### ② 接近の制御

- ・防犯カメラの設置 ・郵便物を溜め込まない
- ・外出中も家の明かりをつけておく

#### ③ 監視性の確保

- ・街の見通しを良くする
- ・パトロールの強化 ・ご近所付き合いの強化

#### ④ 領域性の強化

- ・挨拶を活発に行う ・地域をきれいに保つ

などが出た。この結果より、  
・学生の防犯意識を高めることが被害対象の強化・回避につながる  
・親密な“近所付き合い”を行うことで、接近の制御、監視性の確保、領域性の強化につながる  
という結論に至った。

そこで、新たに出た「学生の防犯意識の向上」と「ご近所付き合い」について KJ 法を行った。学生の防犯意識の向上については、学生の防犯意識が低いと自転車泥棒や住居侵入といった街頭犯罪の発生のリスクが高まるという結論を得た。近所付き合いと防犯効果については、「犯罪者の視点から見た防犯環境設計の有効性の検討～全国の被収容者を対象とした質問紙調査報告～」(雨宮護,2009)において、住民の自然な監視力が犯罪を諦める主な理由であることが示されている。また、警察庁の HP では、住民相互の活動や交流を促進することで、部外者が侵入しにくい雰囲気地域を形成し、領域性の確保につながると記されている。このことから、親密な近所付き合いによって監視性の確保や不審者情報の共有などを行うことで、犯罪の抑制、防止につながると言える。

筑波大学周辺の環境の特徴として、学生街であることが挙げられるが、広島県西条町では地域住民と広島大学の学生はほとんど交流せずに過ごしているという報告があがっている。これは、筑波大学周辺にも当てはまるのではないかと考えた。

### 1.4 目的

先述の通り、筑波大学周辺では犯罪の発生率が顕著であるため、その抑制を防犯環境設計の 4 つの要素のうち、「監視性の確保」「領域性の確保」という観点から行っていく。これら二つの要素を満たすための方策として、近所付き合いの増進というアプローチから行うことを目的とする。

2009 年の「犯罪者の視点から見た防犯環境設計の有効性の検討」によると、犯罪の抑止となる大きな要因として警察の力と共に上記の監視性が述べられている。

2. 研究の流れ

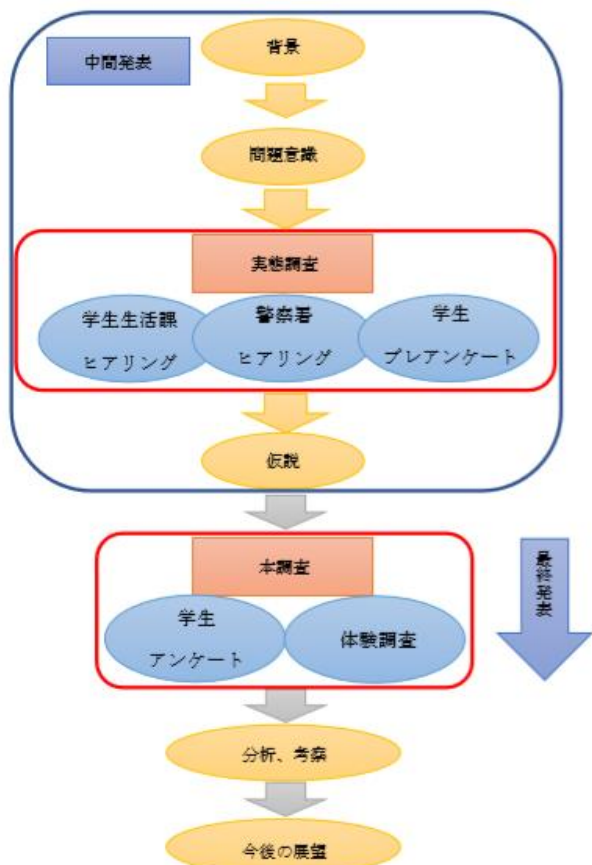


図2 研究の流れ

以上の流れを踏まえ、我々は学生を対象とした学生の意識把握や実態調査のためのプレアンケートを行った。また同時に、大学での防犯への取り組みや地域の交流への取り組みについて学生生活課へ、つくば市の犯罪被害の現状についてつくば市中央警察署へそれぞれヒアリングを行った。以下の調査結果をもとに仮説を設定し、その検証のためのアンケート及び体験調査を行う。その結果を分析、考察した上で最終的な本の提言をまとめ、防犯の施策として発表する。

3. 実態把握のためのプレ調査  
3.1 学生生活課へのヒアリング調査

筑波大学が行っている防犯への取り組みや学生の地域交流の実態、学生に防犯上求めることを調査し、大学としての学生の防犯の実態を把握するために学生生活課にヒアリングを行った。

表2 学生生活課へのヒアリング結果

調査日	5月8日(火)14:00～
対象者	学生生活課 谷本様
場所	Student Plaza3階

質問項目
・大学が行っている防犯への取り組み 大学が行っている防犯への取り組みとしては年に一回施設部に依頼して行う学内のパトロール及び安全キャンペーンが挙げられる。それ以外にもフレッシュマンセミナーや様々な媒体を介しての呼びかけを行っているものの、意識の変化には繋がりにくいという問題点が挙げられた。 また、最も多い犯罪が自転車盗難であることから(図3参照)鍵かけの呼びかけも行っている。
・学生に防犯上望むこと 主に自転車事故や自転車の盗難への対策としての基本を徹底することを呼びかけているという
・学生の地域との交流 大学が把握している範囲内、すなわち大学の公的な企画としてはないとのこと。もし行うのであれば、学生生活課としても望ましいとの回答が得られた。

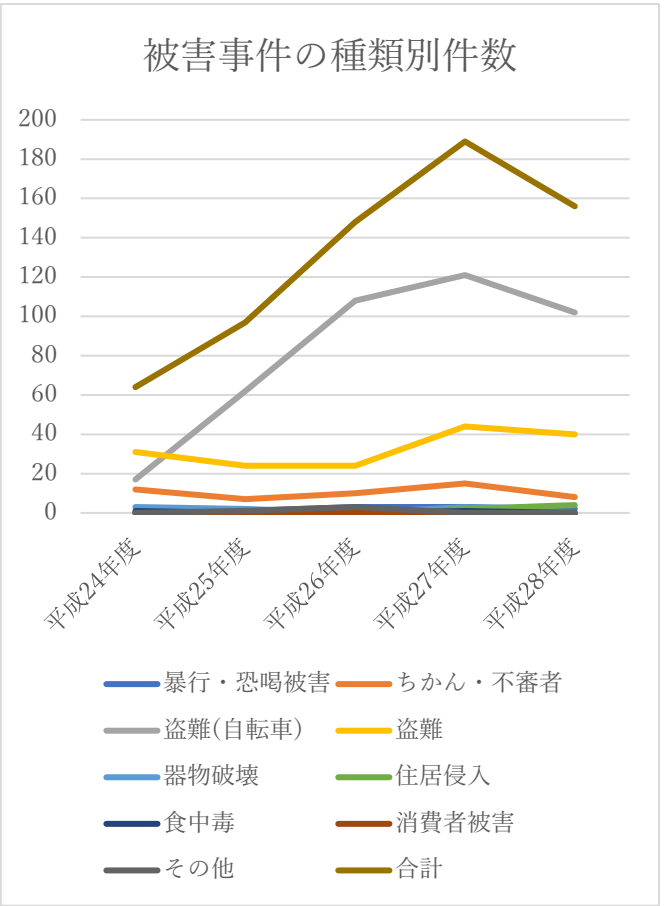


図3 筑波大学における被害事件の種類別件数

3.2 つくば中央警察署へのヒアリング調査

つくば市の犯罪発生数と、警察署が防犯上学生に望むことを調査し、つくば市の犯罪と防犯の実態を把握するためにつくば中央警察署にヒアリングを行った。

表3 つくば中央警察署へのヒアリング結果

調査日	5月11日(火)15:00～
対象者	つくば中央警察署 斉藤様
場所	つくば中央警察署

・つくば市の犯罪発生状況  
市内での犯罪の発生数は被害の多いものから順に、自転車の盗難、自動車の盗難、空き巣及び住居侵入の三件が上位を占める。これらに限らず、昨年度起こった事件数は累計 527 件であり、毎日市内で事件が発生している。

・警察署が学生に望むこと  
防犯活動を行うより、まず自身が巻き込まれないための自衛を行い、万が一犯罪に巻き込まれた場合は、必ず通報してほしいとのこと。警察を身近に置いてほしい。

3.3 つくば市役所へのヒアリング

つくば市がどのような防犯活動を行っているのか把握するために、つくば市役所防犯交通安全課にヒアリング調査を行った。

表 4 つくば市役所へのヒアリング結果

調査日	5月 11 日(火) 15:00～
対象者	防犯交通安全課 山本様
場所	つくば市役所 2 階

質問項目

- ・つくば市が行っている防犯活動
  - ① ジョグパト  
ジョギングをする際にビブスを着用して走ることで地域のパトロールをする、というボランティア活動。詳しい内容は 5 章に記述。
  - ② 自警団  
自治体メインで行う防犯活動。活動人数や活動報告等を行う必要がある。
  - ③ 防犯・環境美化サポーター  
つくば市が業者に委託して行っている防犯活動。つくば市全域を車でパトロールしている

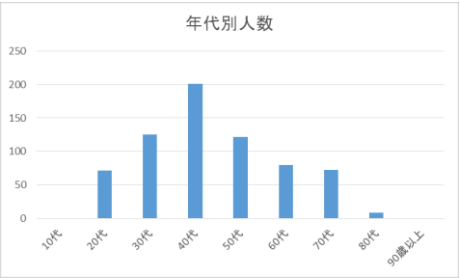


図 5 参加者の走行地区



図 6 参加者の走行地区

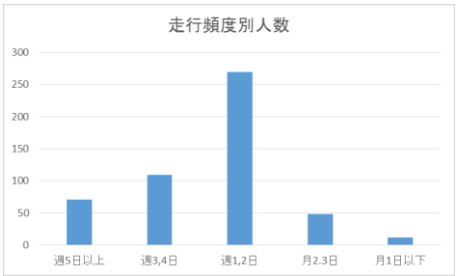


図 7 参加者の走行頻度

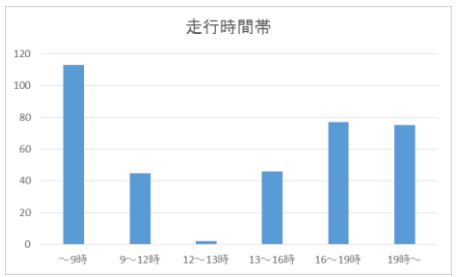


図 8 参加者の走行時間帯

3.4 学生へのアンケート調査

実際の学生の防犯意識、学生が実際に遭った犯罪被害、そして近所付き合いの有無について調査し、実態把握及び分析するために紙面によるアンケート調査を行った。

表 5 学生へのアンケート調査結果

実施目的	防犯意識・地域コミュニティ等の現状把握
対象	筑波大生
実施授業	進化ゲーム論, 都市防災, 国際教育論, 水環境論, 交通運輸政策, 都市計画原論, 政治外交史
有効回答数	527 部

図 4 ジョグパトの申請書

質問項目

- ・見聞きした犯罪被害  
前述の警察署の調査と同様に実際に受けた被害も聞い

た被害も自転車盗難が最も多く、自動車盗難、家宅侵入がそれに次ぐ。実際の被害数は有効回答中 77 人が何かしらの犯罪被害に遭ったことがあり、学内の 7 人に 1 人が被害に遭っている計算となる。

・学生リスク認知、防犯意識

回答した学生の約 80%はつくば市の治安はよいと考え、自分が被害に遭うことはないと考えている人は非常に少なかった。

・学生の近所付き合いの程度

8 割以上の学生が近所づきあいは薄い。

・ジョグパトの認知度

71%の学生がジョグパトについて全く知らないと回答した。

・ジョグパトなどの地域防犯活動への参加意欲

全く参加したくないという学生が半数以上。是非参加したいという学生は約 2%程度。

#### 4. 調査結果のまとめ

学生生活課およびつくば中央警察署へのヒアリング、学生へのアンケート調査を実施した結果、以下のような問題点が明らかとなった。

【学生生活課】

- ・学生生活課から防犯への呼びかけは行っているものの学生の防犯意識の改革には繋がっていない。
- ・大学側が把握している学生と地域住民との交流は特にない。

【つくば中央警察署】

- ・市内の犯罪件数は非常に多く、なかでも自転車や自動車の盗難、空き巣および住居侵入が多い。

【学生】

- ・学内の7人に1人が被害にあっているのにも関わらず、8割の人はつくば市の治安はよい又は普通と考えている。これらの問題点を受けて、どのようなことが必要であるか列挙する。
  - ・つくば市では犯罪が多いという現状を理解させることが必要
  - ・学生に直接的に防犯意識の向上につながる活動を行うことが必要
  - ・学生と地域住民の交流を増やす機会を設けることが必要
- また、つくば市役所にて学生が行う防犯活動としてジョグパトを推奨して頂いた。しかし、学生へのアンケート調査からジョグパトの認知はほとんどされていないことが分かった。

#### 5. ジョグパトについて

ジョグパトは現在つくば市が推している活動で、学生の参加もしやすいとのことだったので、より詳細な活動内容を調査した。

- ・2014 年からボランティアというスタンスで実施。
- ・申請は簡単な申請書を書くのみで、申請した際にはその場でビブスが配布されるので、誰でも簡単に始めることが出来る。
- ・申請する際のアンケートの結果、参加者の年代は 30～50 代の参加者が多い。
- ・参加者の走行頻度は主に週 1、2 回程度
- ・走行時間帯は 9 時以前と夕方 16 時以降が多い

#### 6. 仮説の設定

先ほど述べた防犯環境設計の観点から、私たちはつくばの治安を改善する要因を以下のように考えた。

① 学生の防犯意識を向上させる。

→被害対象の強化・回避

② 近所付き合いの活性化

→接近の制御、監視の確保、領域性の強化

実現可能な範囲で、これらの要因を満たせるものを

検討した結果、「ジョグパト」の活動を促進していくことで学生の防犯意識向上、近所付き合いの活性化につながり、つくばの治安が改善するのではないかと仮説をたてた。

#### 7. 今後の方針

次に行うのは、仮説の検証を目的としたアンケート調査と、ジョグパトへの参加を促す具体案を実施することである。

アンケート調査では、学生の防犯意識に着目し、犯罪手口・統計資料・犯罪マップの 3 種類のアンケートを作成し、防犯意識の変化にどれだけ差があるのかを検証する。これにより、学生の防犯意識向上に有効な手立てが発見できると考える。

ジョグパト推進については、参加を促す対象を「対象①:ジョギングを行っているがジョグパトは行っていない人」、「対象②:ジョギングを行っていない人」に分けて、それぞれの対象に効果的にジョグパトへの参加を促す具体案を検討する。

対象①については、ジョギングすること自体への負担感は少ないため、ジョグパトに参加することによってジョギングの満足度を上げる提案を考えている。例えば、ジョギングの際の便利グッズの配布やポスターでつくば市内の綺麗な風景が見られるジョギングルートの提案や、大学周辺の店舗と提携してジョグパトのビブスを着ていることで特典が得られるようにするなどである。

対象②については、ジョギングすること自体のモチベーション作りのために、人との交流をメインにしているべく参加への負担感を減らす提案を考えている。具体案としては、新入生に筑波大学周辺を案内しながらのジョグが挙げられる。

ジョグパトについても、提案の需要や実現性に関するアンケートを実施する予定である。

#### 参考文献

- (1)茨城県市町村別認知件数(H29 年)  
[https://www.pref.ibaraki.jp/kenkei/a01\\_safety/statistics/pdf/shichoson/sousuu\\_h29r.pdf](https://www.pref.ibaraki.jp/kenkei/a01_safety/statistics/pdf/shichoson/sousuu_h29r.pdf)
- (2)平成二十九年度 学生生活実態調査 報告書  
<http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/lifesurvey/pdf/2017undergrad.pdf>
- (3)つくば市ジョギングパトロール  
<http://www.city.tsukuba.lg.jp/kurashi/anshin/bouhan/1000612.html>
- (4)防犯環境設計とは？  
<https://www.anzen-fukuoka.jp/town/about/>
- (5)鍋倉賢治他．“歩行量からみた筑波大学生の活動量”．2005